

東京五輪サーフィン

# 田原市が会場誘致へ

## 追加競技候補 山下市長「県を元気に」



田原市は、5年後の2020(平成32)年東京五輪・パラリンピック追加競技候補のサーフィン(ショートボード、選手数40人)について、本格的な大会会場誘致に名乗りを上げる。21日、山下政良市長らが市役所で記者会見し、発表した。(千葉敬也)

山下市長は、第一歩として22日に大村秀章知事、地元選出の国会議員、県議、市議会議長らと東京五輪・パラリンピック競技大会組織委員

2020年東京五輪・パラリンピック追加競技候補のサーフィン大会会場誘致について説明する山下市長(右から2人目) 田原市役所で

した表浜海岸「太平洋ロングビーチ」を会場に設定。陳情書では、これまでの国際大会など競技開催の実績をはじめ、全国有数のサーフィンスポットとして知られる波の質の良さや、温暖な気候条件、日本列島の中心にあるアクセスの良さ、景観美など競技運営の適正と優位性を提言している。

誘致レースをめぐるのは現在、千葉や宮崎、神奈川県など複数の県などが競合地。いずれも田原市に並んでサーフィンの盛んな地域として

知られる。大会は「コンパクト五輪」を掲げていることから、市は東京圏との地理的距離が引けを取ると見られる。

山下市長は「市民一丸、田原市を挙げて誘致に取り組み、渥美半島を盛り上げ、東三河、愛知県を元気にしたい」と話している。

サーフィンは来年夏のリオデジャネイロ五輪直前に予定するIOC(国際オリンピック委員会)総会で正式決定される見通し。世界的に若者層から人気があるサーフィンの競技人口は世界で約3500万人、国内でも約200万人とされている。

田原市は国内屈指のサーフィンスポットとして人気を誇り、世界大会やプロ・アマによる全国大会が数多く開催されている。